

Made for

 iPod  iPhone  iPad

デスクトップオーディオシステム

TSX-B232



ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

ご使用前に本書の「安全上のご注意」(23～25ページ)を必ずお読みください。

 **Bluetooth®**

保証書別添付

取扱説明書

目次

本機でできること	2	ペアリング済みの機器を Bluetooth 接続する	11
付属品	2	Bluetooth 接続を切断する	12
各部名称とその機能	3	ラジオを聴く	12
上面 / 前面	3	放送局を選ぶ	12
前面ディスプレイ	4	放送局をプリセットに登録する (リモコンのみ)	12
背面	4	登録した放送局を選ぶ (プリセット選局)	13
リモコン	5	外部機器の音楽を聴く	14
本機をシステムオンにする	6	アラーム機能を使う	14
時計を合わせる	6	アラームを設定する	15
iPod の音楽を聴く	7	アラーム再生中の操作	16
iPod の音楽を再生する	7	iPod touch/iPhone/iPad 用アプリケーション	
リピート / シャッフル再生する (リモコンのみ)	7	「DTA Controller」を使う	16
CD、USB 機器の音楽を聴く	8	スリープタイマー機能を使う	17
CD を再生する	8	音質を調節する (リモコンのみ)	17
USB 機器を再生する	9	前面ディスプレイの明るさを調節する (リモコンのみ) ..	17
リピート / シャッフル再生する (リモコンのみ)	9	故障かな? と思ったら	18
Bluetooth 機器の音楽を聴く	10	ディスクおよび USB 機器について	21
本機と Bluetooth 機器をペアリングする	10	主な仕様	22
Bluetooth 機器を再生する	11	安全上のご注意	23

本機でできること

- iPod/iPhone/iPad、オーディオ / データ CD、USB 機器の再生、AUX を使った外部機器の再生、ラジオの受信ができます。
- Bluetooth 技術により、ワイヤレスでクリアな音楽を楽しむことができます。
- お好みの音楽やビープ音 (内蔵アラーム音) を使ったアラーム (目覚まし) 機能が利用できます。設定時刻になると、設定した音楽がお好みの音量で流れ、快適な目覚めを提供します (IntelliAlarm 機能) (P. 14)。
- iPod touch/iPhone/iPad 用の無料アプリケーション「DTA Controller」をお使いいただくことで、アプリケーションから本機を操作したり、より多彩なアラーム機能を利用したりすることができます (P. 16)。
- お好みのラジオ放送局を FM/AM それぞれ 30 局までかんたんに登録 / 呼出できます。
- 3 バンド (低音 / 中音 / 高音) イコライザーを搭載し、お好みの音質で音楽を楽しめます。

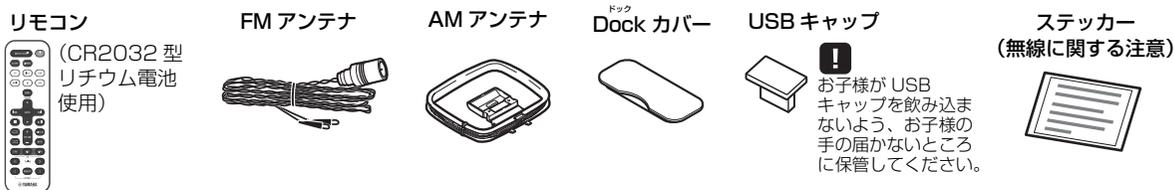
◆ 本書について

- 本文中の iPod という表記は iPhone も含みます。
- 本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、本体での操作を中心に記載しています。
- 本書で使用されている記号

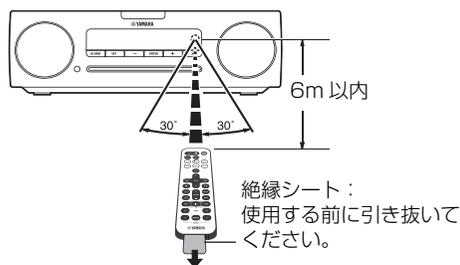
! 使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

☀ 知っておくと便利な補足情報が記載されています。

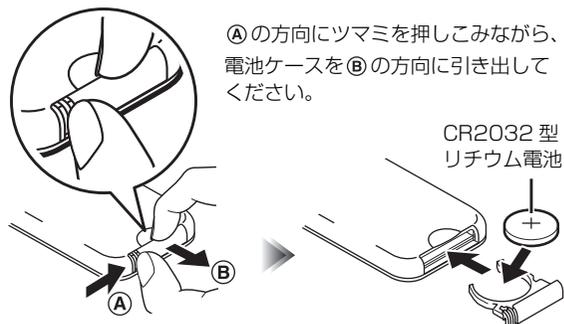
付属品



◆ リモコンを使用する

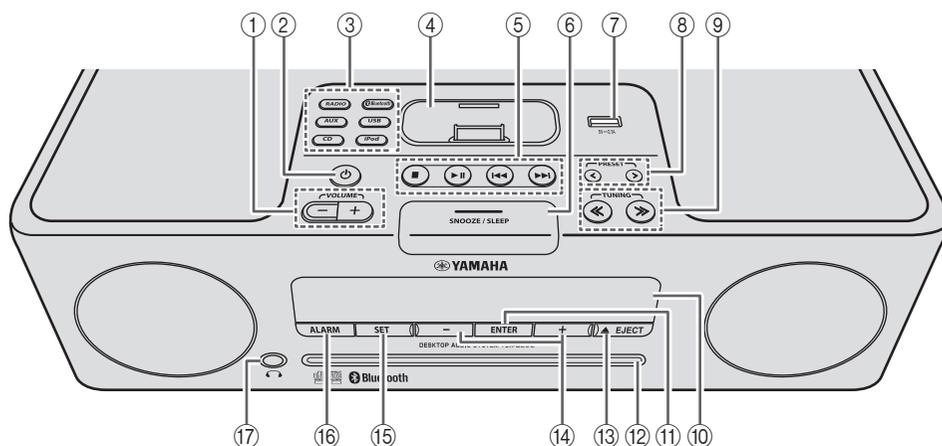


◆ リモコンの電池を交換する



各部名称とその機能

上面 / 前面



- ① ^{ボリューム} **VOLUME - / +**
音量を調節します。
- ② **電源**
システムオン/オフを切り替えます (P. 6)。
- ③ **ソースボタン**
再生する音楽ソースを切り替えます。
システムオフ時に押すと、システムがオンになり、音楽ソースを切り替えます。
- ④ ^{ドック} **iPod Dock**
iPod を接続します (後述の「iPod を iPod Dock に接続する」を参照してください)。
- ⑤ **オーディオ操作ボタン**
iPod/CD/USB 機器の操作をします。
■: 再生停止
▶||: 曲の再生 / 一時停止
◀◀/▶▶: 曲のスキップ、早戻し / 早送り (長押し)
- ⑥ ^{スヌーズ} **SNOOZE/SLEEP**
スリープタイマーの設定や、アラームのスヌーズ機能を操作します (P. 16、17)。
- ⑦ **USB ポート**
USB 機器 / iPod/iPhone/iPad を接続します (P. 9)。
!
USB 機器を使用しないときは、端子を保護するために USB キャップをかぶせてください。
- ⑧ ^{プリセット} **PRESET </>**
登録したラジオの放送局 (プリセット) を選択します (P. 13)。
- ⑨ ^{チューニング} **TUNING <</>>**
ラジオをチューニングします (P. 12)。
- ⑩ **前面ディスプレイ**
時計やさまざまな情報を表示します (P. 4)。
- ⑪ ^{エンター} **ENTER**
選択された項目や数値を確定します。
- ⑫ **CD 挿入口**
CD を挿入します (P. 8)。
- ⑬ **EJECT (イジェクトボタン)**
CD を取り出します。
- ⑭ **- / +**
時計設定やアラーム設定時に、項目や数値を選択します。
- ⑮ ^{セット} **SET**
アラームを設定します (P. 15)。
- ⑯ ^{アラーム} **ALARM**
アラームのオン/オフを切り替えます (P. 16)。
- ⑰ **ヘッドホン端子**
ヘッドホンを接続します。

◆ iPod を iPod Dock に接続する

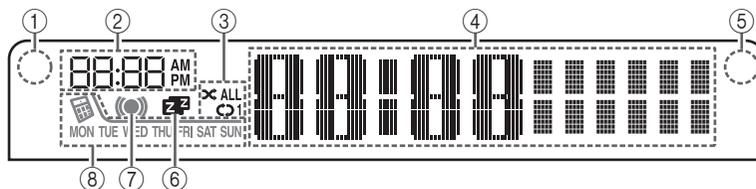


iPod Dock に接続すると充電されます。ただし、ソースが USB のときは充電されません。



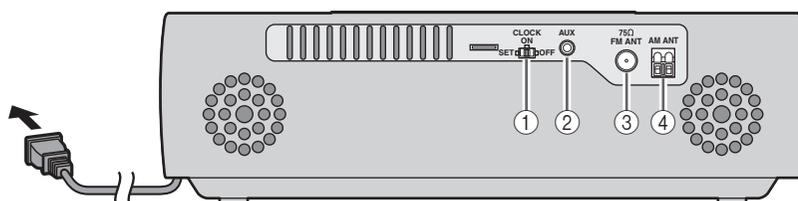
- お使いの iPod に対応している Dock アダプタを必ずご使用ください。アダプタを装着しない、またはアダプタが適合していない場合、ぐらつきや接触不良によりコネクタが破損する恐れがあります。Dock アダプタについては、アップルのウェブサイトをご覧ください。
- iPod に保護ケースを付けたまま無理に接続すると、コネクタが破損する恐れがありますので、保護ケースを外して接続してください。
- iPod を使用しない時は、コネクタを保護するために Dock カバーをかぶせてください。

前面ディスプレイ

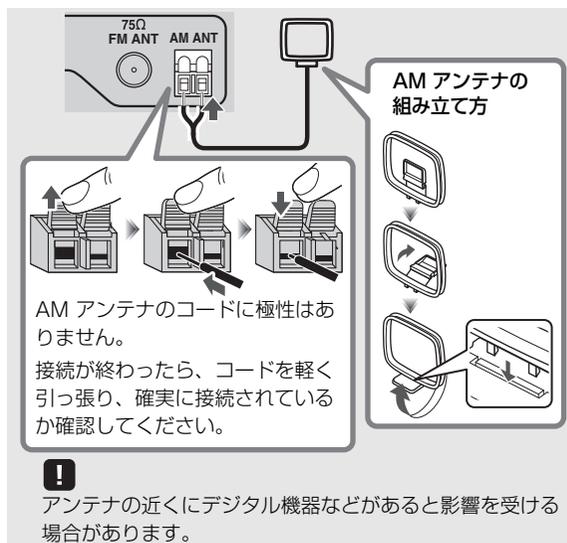
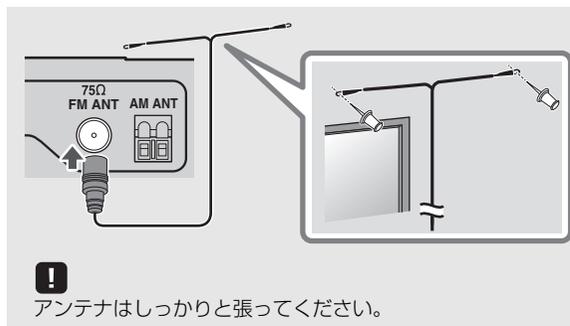


- ① **照度センサー**
周囲の明るさを感知します。センサーが隠れないようにしてください。
- ② **アラーム時刻**
アラームの時刻が表示されます。
- ③ **リピート/シャッフルインジケーター**
再生状態を表示します (P. 7、9)。
- ④ **多機能インジケーター**
時計の時刻、再生中の曲の情報、ラジオの周波数など、さまざまな情報を表示します。
表示される文字は英数字のみです。漢字やひらがな、カタカナ、特殊記号は表示されません。
- ⑤ **リモコン信号受光部**
受光部が隠れないようにしてください (P. 2)。
- ⑥ **スリープインジケーター**
スリープタイマー (P. 17) をオンにすると点灯します。
- ⑦ **アラームインジケーター**
アラーム (P. 16) をオンにすると点灯します。
- ⑧ **ウィークリーアラームインジケーター**
iPod touch/iPhone/iPad 用の無料アプリケーション「DTA Controller」で設定したアラームの情報が表示されます (P. 16)。

背面

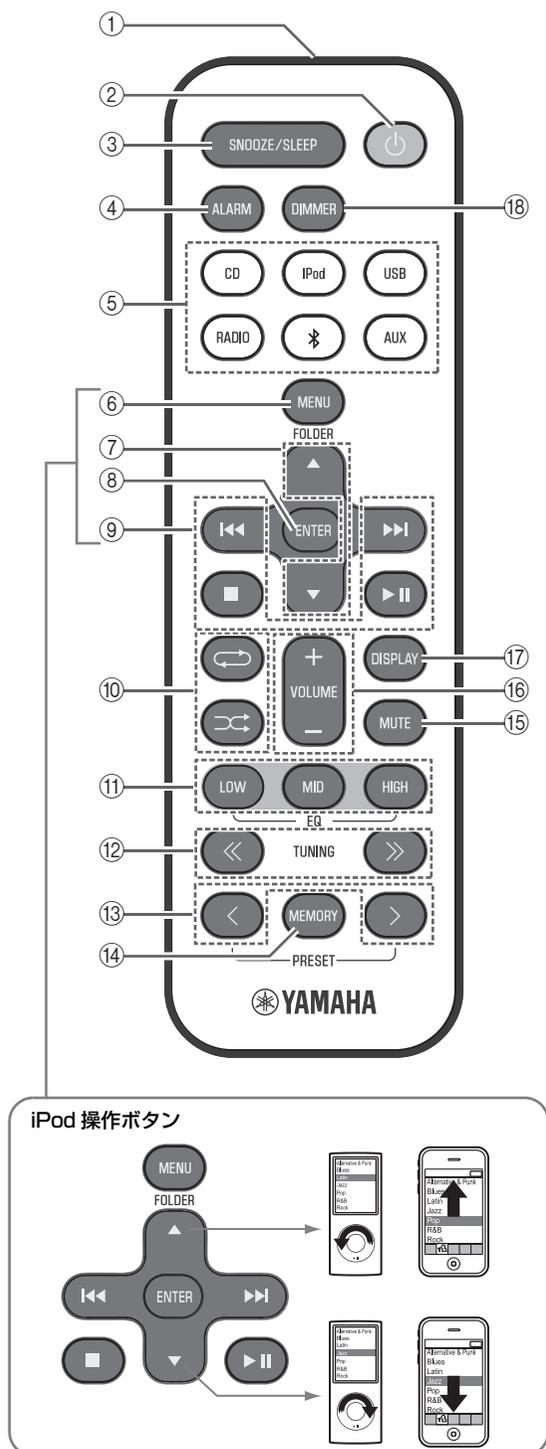


- ① **CLOCK スイッチ**
クロック
時計設定や時計表示の有無を選択します (P. 6)。
SET： 時計を合わせます。
ON： システムオフ時にも時計が表示され、アラーム機能が使用できます。
OFF： システムオフ時に時計が表示されず、アラーム機能は使用できません。
- ② **AUX**
市販の 3.5mm ミニプラグケーブルで外部機器を接続します (P. 14)。
- ③ **FM アンテナ端子**
FM アンテナを接続します。
- ④ **AM アンテナ端子**
AM アンテナを接続します。



- 受信状態が悪い場合は、受信状況の良い場所を探してアンテナの高さや方向、設置場所を変えて設置してください。
- 付属のアンテナの代わりに市販の屋外アンテナを使用すると受信状態が良くなる場合があります。

リモコン



① 赤外線信号送信部

② 電源

システムオン / オフを切り替えます (P. 6)。

③ SNOOZE/SLEEP

スリープタイマーの設定や、アラームのスヌーズ機能を操作します (P. 16、17)。

④ ALARM

アラームのオン / オフを切り替えます (P. 16)。

⑤ ソースボタン

再生する音楽ソースを切り替えます。
システムオフ時に押すと、自動的にシステムオンになります。

RADIO を繰り返し押して FM/AM を切り替えることができます。

⑥ MENU

iPod のメニューの切り替え / 前のメニューに戻ります (P. 7)。

⑦ FOLDER ▲ / ▼

データ CD や USB 機器の再生時、再生するフォルダーを切り替えます (P. 7、8、9)。

音質の調節時に数値を選択します (P. 17)。

⑧ ENTER

選択した項目や数値を確定します。

⑨ オーディオ操作ボタン

iPod/CD/USB 機器の操作をします。

- : 再生停止
- ▶||: 曲の再生 / 一時停止
- ◀▶: 曲のスキップ、早戻し / 早送り (長押し)

⑩ (リピート) / (シャッフル)

iPod/CD/USB 機器をリピート / シャッフル再生します (P. 7、9)。

⑪ EQ: LOW/MID/HIGH

低音、中音、高音の音質を調節します (P. 17)。

⑫ TUNING < / >

ラジオをチューニングします (P. 12)。

⑬ PRESET < / >

登録したラジオの放送局 (プリセット) を選択します (P. 13)。

⑭ MEMORY

ラジオの放送局を登録します (P. 12)。

⑮ MUTE

消音 / 消音の解除を行いません。

⑯ VOLUME + / -

音量を調節します。

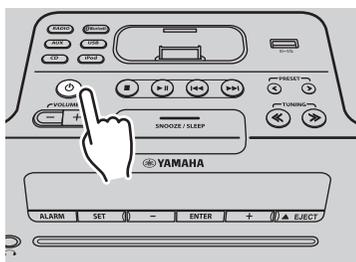
⑰ DISPLAY

前面ディスプレイに表示される情報を切り替えます (P. 7、8、9、12)。

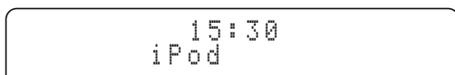
⑱ DIMMER

前面ディスプレイの明るさを調節します (P. 17)。

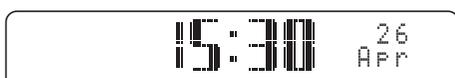
本機をシステムオンにする



システムオン時ディスプレイ (24 時間表示)



システムオフ (CLOCK スイッチ:ON) 時ディスプレイ (24 時間表示)



電源コードをコンセントに接続し、**⏻**を押す。
システムオンになり、各音楽ソースを再生できる状態になります。

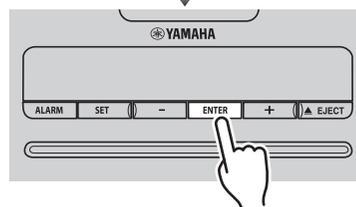
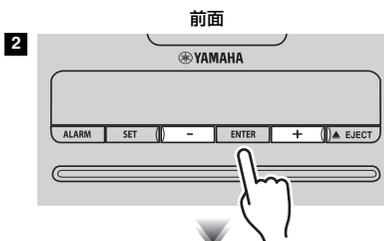
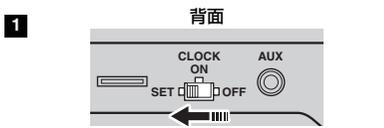
もう一度 **⏻** を押しとシステムオフになります。



背面の **CLOCK** スイッチ (P. 4) を OFF にするとシステムオフ時の時計表示が消え、電力の消費を抑えることができます。

	システム オフ時の 時計表示	アラーム	iPod Dock での iPod 充電
CLOCK スイッチ: ON	あり	有効	可
CLOCK スイッチ: OFF (省電力)	なし	無効	可

時計を合わせる



Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
1月	2月	3月	4月	5月	6月
Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
7月	8月	9月	10月	11月	12月

1 背面の **CLOCK** スイッチを **SET** にする。
「CLOCK YEAR」と表示され、設定する数値が点滅します。

2 日付、時刻を合わせる。
前面の - / + で各数値を変更し、ENTER で確定します。
年→月→日→時→分の順で設定します。
設定が完了すると、「Completed!」と表示されます。



• ステップ **2** で iPod を iPod Dock に接続すると、iPod の時刻が本機にコピーされます。あらかじめ iPod が接続されていた場合、時刻はコピーされません。

• ステップ **2** で SNOOZE/SLEEP を押しと、時間表示 (12 時間 / 24 時間) を選択できます。

3 **CLOCK** スイッチを **ON** に合わせ終了する。
ON に合わせた時点を 00 秒として時計が設定されます。

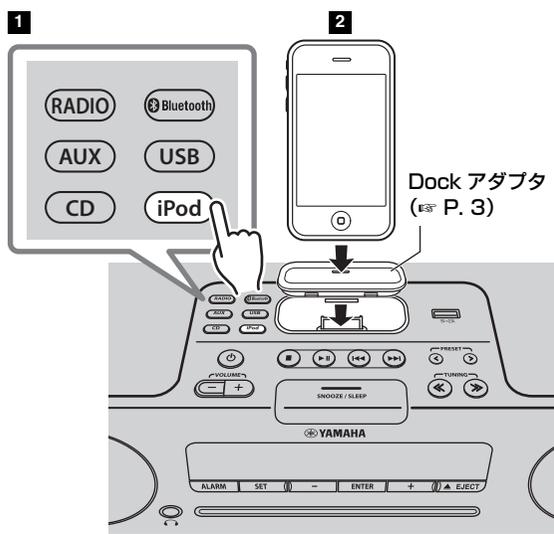


本機に 1 週間以上電力が供給されなかった場合、時計はリセットされます。

iPod の音楽を聴く

iPod の音楽を再生する

- 対応 iPod については、「主な仕様」(P. 22) を参照してください。
- iPod は USB ポートに接続しても再生できます (P. 9)。



1 ソースボタンの iPod を押して音楽ソースを iPod に切り替える。

2 iPod Dock に iPod を接続する (P. 3)。

3 iPod を再生する。

再生操作は、リモコン、本機、iPod のいずれでも行なえます (P. 3, 5)。



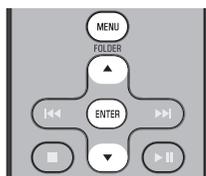
• 本機がシステムオフの場合でも、以下の操作をすると自動的に音楽ソースを iPod に切り替えて再生されます。

- 再生状態の iPod を iPod Dock に接続する。
- 接続している iPod を再生する。

音楽ソースが USB のとき、または本機が Bluetooth 接続中は、音楽ソースが自動で切り替わらない場合があります。

- 音楽ソースが USB のときは、iPod は充電されません。
- iPod は再生中でも取り外せません。
- 音楽ソースが iPod のとき、iPod Dock に接続がなく操作がされない状態が 60 分続くと、自動的にシステムオフになります。

◆ iPod のメニュー操作 (リモコンのみ)



リモコンで iPod の操作ができます。

MENU (メニュー): メニューの切り替え / 前のメニューに戻る

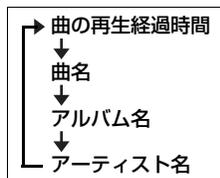
▲ / ▼: メニュー内の項目の移動

ENTER (エンター): 決定

◆ 表示情報 (リモコンのみ)



曲の再生 / 一時停止中にリモコンの **DISPLAY** (ディスプレイ) を押すと、前面ディスプレイに表示される情報は右の順番で切り替わります。



リピート / シャッフル再生する (リモコンのみ)

再生状態は前面ディスプレイのリピート / シャッフルインジケーター (P. 4) で確認できます。

◆ リピート再生



リモコンの **リピート** (リピート) を繰り返し押し、以下から再生方法を選択してください。

非表示: オフ

1: 1 曲

ALL: すべて

◆ シャッフル再生



リモコンの **シャッフル** (シャッフル) を繰り返し押し、以下から再生方法を選択してください。

非表示: オフ

アルバム

曲



ご使用の iPod によっては、リピート / シャッフルが上記のように表示・動作しない場合があります。

CD、USB 機器の音楽を聴く

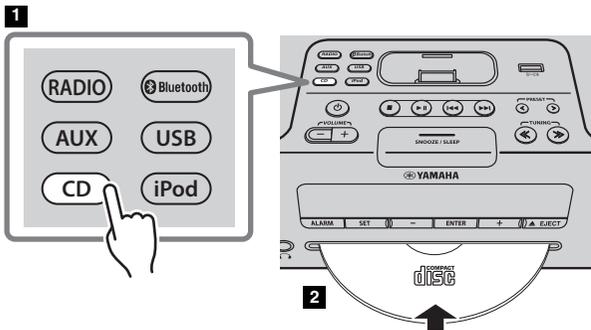
CD/USB 機器の再生時、本機は次のように動作します。

- 再生中の CD/USB 機器を停止した場合、次回は再生していた曲の始めから再生されます。
- 停止中に再度 ■ を押しと、次回再生時以下のように再生されます。
 - オーディオ CD : CD の最初から再生
 - データ CD (MP3/WMA ファイルが記録された CD)、USB : 前回停止した曲があるフォルダーの最初の曲から再生
- CD/USB 機器の再生を停止した後、何も操作されない状態が 60 分続くと、本機は自動的にシステムオフになります。



再生できるディスク、ファイルについては、「ディスクおよび USB 機器について」(P. 21) を参照してください。

CD を再生する



1 ソースボタンの CD を押して音楽ソースを CD に切り替える。

CD がすでに挿入されている場合、再生が始まります。

2 CD 挿入口に CD を入れる。

自動的に再生が始まります。再生操作は、リモコン、本機のいずれでも行なえます (P. 3、5)。

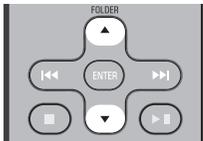


CD のラベル面を上にして入れてください。



データ CD のフォルダー / ファイルはアルファベット順に再生されます。

◆ フォルダースキップ操作 (リモコンのみ)



データ CD の再生中に、リモコンの ^{フォルダー}FOLDER ▲ / ▼ でフォルダーを選択できます。

◆ 表示情報 (リモコンのみ)



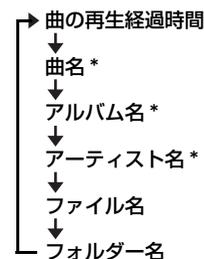
再生開始時やスキップ時は、フォルダー番号 (データ CD のみ)、曲 / ファイル番号が数秒間表示されます。

曲の再生 / 一時停止中にリモコンの ^{ディスプレイ}DISPLAY を押しと、前面ディスプレイに表示される情報は以下の順番で切り替わります。

オーディオ CD

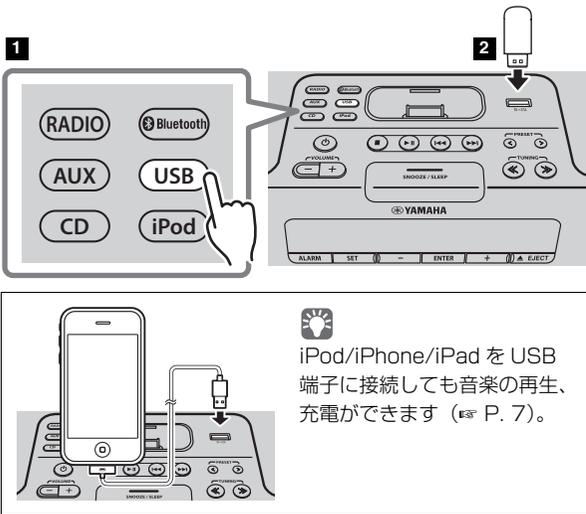


データ CD



* 曲に情報が含まれている場合のみ表示されます。

USB 機器を再生する



1 ソースボタンの USB を押して音楽ソースを USB に切り替える。

USB 機器がすでに接続されている場合、再生が始まります。

2 USB ポートに USB 機器を接続する。

自動的に再生が始まります。再生操作は、リモコン、本機、USB 機器のいずれでも行なえます (P. 3、5)。

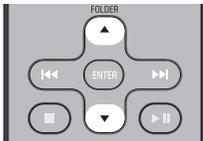


フォルダー / ファイルは書き込み順に再生されます。



USB 機器を取り外すときは再生を停止してください。

◆ フォルダースキップ操作 (リモコンのみ)



USB 機器の再生中に、リモコンの **FOLDER ▲ / ▼** でフォルダーを選択できます。

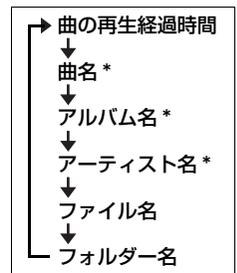
◆ 表示情報 (リモコンのみ)



再生開始時やスキップ時は、フォルダー / ファイル番号が数秒間表示されます。

曲の再生 / 一時停止中にリモコンの **DISPLAY** を押すと、前面ディスプレイに表示される情報は次の順番で切り替わります。

* 曲に情報が含まれている場合のみ表示されます。



リピート / シャッフル再生する (リモコンのみ)

再生状態は前面ディスプレイのリピート / シャッフルインジケーター (P. 4) で確認できます。

◆ リピート再生



リモコンの **REPEAT** (リピート) を繰り返し押し、以下から再生方法を選択してください。

非表示: リピートオフ

- 1:** 1 曲
- :** フォルダー内の全曲 (データ CD / USB 機器のみ)

ALL: 全曲

◆ シャッフル再生



リモコンの **SHUFFLE** (シャッフル) を繰り返し押し、以下から再生方法を選択してください。

非表示: シャッフルオフ

: フォルダー内の全曲 (データ CD / USB 機器のみ)

ALL: 全曲

Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetoothソース

本機は Bluetooth 機能を搭載しています。Bluetooth 機器（携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど）の音楽をワイヤレスで楽しめます。ご使用の際には、お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

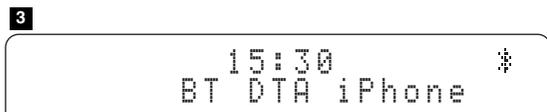
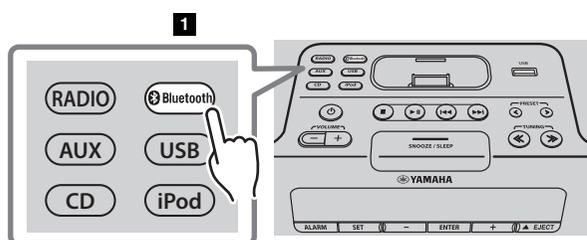
本機と Bluetooth 機器をペアリングする

ペアリングとは、通信を行なう機器（以下「相手機器」）を本機に登録する操作です。Bluetooth 機器を初めて本機と Bluetooth 接続するときやペアリング情報が削除されたときには、ペアリングを行なう必要があります。一度ペアリングが完了すると、以降は Bluetooth 接続を切断しても簡単に再接続できます。ペアリングできない場合は、「故障かな？と思ったら」の「Bluetooth」の項（P. 20）を参照してください。



- 本機は最大 8 台の相手機器とペアリングできます。9 台目の相手機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- 本機が別の機器と Bluetooth 接続している場合は、本体の Bluetooth またはリモコンの Bluetooth を長押しして Bluetooth 接続を切断してからペアリングを行なってください。

◆ iPod touch/iPhone/iPad の場合



1 ソースボタンの Bluetooth を押して音楽ソースを Bluetooth に切り替える。

2 iPod touch/iPhone/iPad の [設定] → [一般] → [Bluetooth] をオンにする。

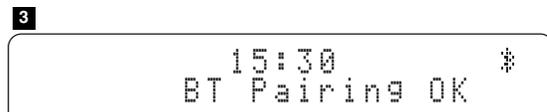
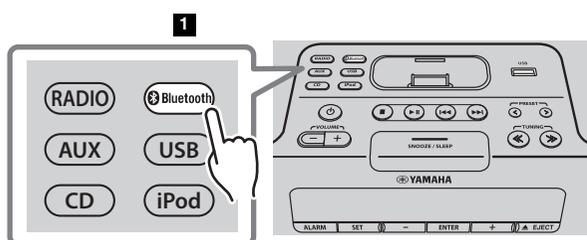
[デバイス] に Bluetooth 接続リストが表示されます。
(お使いの iPod touch/iPhone/iPad によっては、操作や表示が異なる場合があります。)

3 相手機器の Bluetooth 接続リストから本機 (TSX-B232 Yamaha) を選ぶ。

ペアリングが完了すると、iPod touch/iPhone/iPad に「接続されました」と表示されます。

本機の前面ディスプレイには「Pairing OK」と表示されたのち相手機器名が表示され、Bluetooth インジケータが点灯します。

◆ iPod touch/iPhone/iPad 以外の場合



1 ソースボタンの Bluetooth を押して音楽ソースを Bluetooth に切り替える。

2 相手機器で Bluetooth のペアリングを行なう。
詳しくは相手機器の取扱説明書を参照してください。

3 相手機器の Bluetooth 接続リストから本機 (TSX-B232 Yamaha) を選ぶ。

ペアリングが完了すると、本機の前面ディスプレイに「Pairing OK」と表示されます。



パスキーの入力を要求されたら、数字で「0000」を入力してください。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行なうと、Bluetooth 接続が切断されます。

- 本体の Bluetooth またはリモコンの Bluetooth を長押しする。
- 本機をシステムオフにする。
- 相手機器の Bluetooth 設定をオフにする。

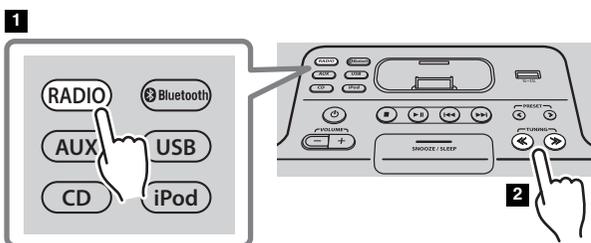


iPod/iPhone/iPad が USB ポートまたは iPod Dock に接続された状態で音楽ソースを iPod または USB に切り替えると、Bluetooth 接続が切断されることがあります。

ラジオを聴く

放送局を選ぶ

ラジオを聴く際はアンテナを接続してください (P. 4)。



1 ソースボタンの **RADIO** を押して音楽ソースを FM または AM に切り替える。

2 放送局を選ぶ

自動チューニング: **TUNING** <</> を長押しする
 手動チューニング: **TUNING** <</> を繰り返し押す



FM 受信中に手動でチューニングした場合、ラジオの音声はモノラルになります。

◆ 表示情報 (リモコンのみ)

リモコンの **DISPLAY** を押すと、前面ディスプレイに表示される情報は以下の順番で切り替わります。

プリセット番号と周波数 ↔ 受信状態 *

* 受信状態の表示例 (AM 放送受信時は、STEREO、MONO の表示はされません)。

TUNED/STEREO : 電波の強い FM ステレオ放送を受信している。

TUNED/MONO : モノラルで FM 放送を受信している (FM ステレオ放送でも、電波が弱いとモノラルになります)。

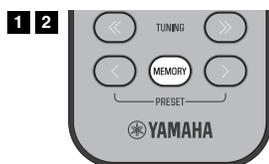
Not TUNED : 放送が受信できない。

放送局をプリセットに登録する (リモコンのみ)

プリセット機能を使って、FM/AM それぞれ 30 局まで登録できます。

◆ 自動プリセット

自動でチューニングし、受信状態の良い放送局のみ自動的にプリセット登録します。



1 リモコンの **MEMORY** を長押しする。

「**AUTO PRESET**」が表示され、「Press **MEMORY**」が点滅します。

2 **MEMORY** を押す。

自動プリセットが開始されます。
 登録が完了すると、「Completed!」と表示されます。

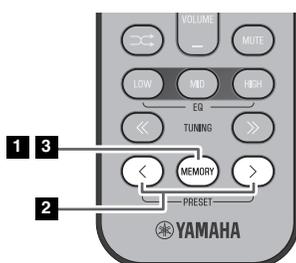


自動プリセットを実行すると現在登録されているすべての放送局が消去され、新たにプリセットされます。



自動プリセットを途中で終了するには、■を押してください。

◆ 手動プリセット


1 登録したい放送局を選んだ状態でリモコンの **MEMORY** を押す。

「PRESET MEMORY」が表示されます。

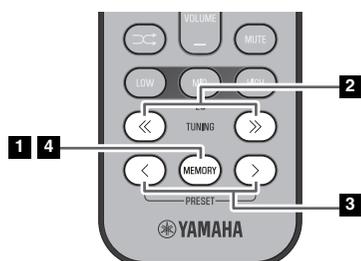
2 **PRESET </>** を押して登録したいプリセット番号を選ぶ。


- 最初に選択されるのは、登録されていない最小のプリセット番号です。
- 登録を途中でキャンセルするには、■を押してください。
- すでに登録されているプリセット番号を選ぶと、新しい放送局に上書きされます。

3 **MEMORY** を押して終了する。

登録が完了し、「Completed!」と表示されます。

◆ 登録したプリセットを削除する


1 リモコンの **MEMORY** を押す。

「PRESET MEMORY」が表示され、プリセット番号が点滅します。

2 **TUNING </>** を押してプリセット削除設定に切り替える。

「PRESET DELETE」が表示されます。

3 リモコンの **PRESET </>** を押して削除するプリセット番号を選ぶ。

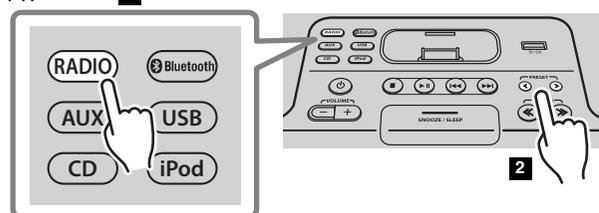

削除を途中でキャンセルするには、■を押してください。

4 **MEMORY** を押して終了する。

プリセットが削除され、「Deleted!」と表示されます。

登録した放送局を選ぶ（プリセット選局）

本体

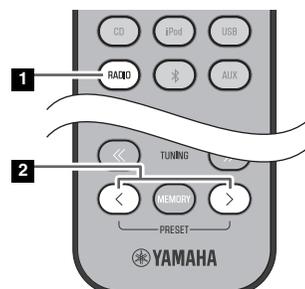

1 ソースボタンの **RADIO** を押して音楽ソースを FM または AM に切り替える。


リモコンの **RADIO** でも切り替えられます。

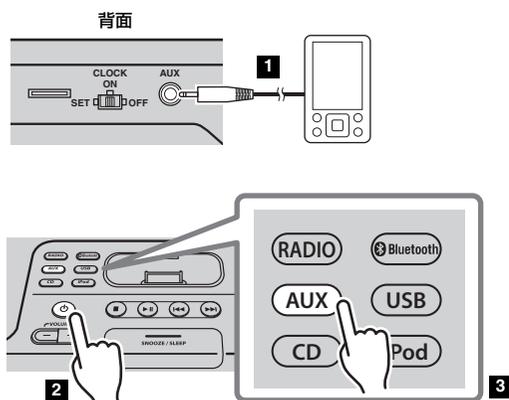
2 **PRESET </>** を押して聴きたい放送局を選ぶ。


登録済みのプリセットのみが選択できます。

リモコン



外部機器の音楽を聴く



1 市販の 3.5 mm ミニプラグケーブルで本体背面の AUX に外部機器を接続する。



- ミニプラグケーブルの接続は、本機をシステムオフにしてから行ってください。
- 接続する前に本機と外部機器の音量を十分に下げてください。

2 電源ボタンを押してシステムオンにする。

3 ソースボタンの **AUX** を押して音楽ソースを AUX に切り替える。

4 接続した外部機器を再生する。

アラーム機能を使う

インテリアラーム

本機には、音楽ソースやビープ音（内蔵アラーム音）をさまざまな方法で設定時刻に再生するアラーム機能（IntelliAlarm）が搭載されています。本機のアラーム機能には次の特徴があります。

◆ 3つのアラームタイプ

音楽と「ピピピ」というビープ音を組み合わせた、3つのアラームタイプが選択できます。

ソース SOURCE+BEEP	音楽ソースとビープ音を設定時刻に再生します。快適な目覚めを提供するお勧めの設定です。 アラーム時刻の 3 分前：音楽ソースの再生を始め、アラーム時刻に向けて徐々に音量が大きくなります。 アラーム時刻：音楽ソースに加え、ビープ音を再生します。
SOURCE	音楽ソースを設定時刻に再生します。小さい音量から再生を始め、徐々に音量が大きくなります。
BEEP	ビープ音を設定時刻に再生します。

◆ さまざまな音楽ソース

iPod、オーディオ CD、データ CD、USB 機器またはラジオが選択できます。音楽ソースによって、次のように再生方法を選択できます。

音楽ソース	再生方法	機能
iPod	レジューム再生	最後に再生していた曲の続きから再生します。 前もって「ALARM Yamaha DTA」という名前のプレイリスト*を作成しておく、iPod に保存されたプレイリストを繰り返し再生します。 プレイリスト名は、単語を半角スペースで区切り、大文字 / 小文字を間違えないように、半角文字で入力してください。
	曲指定	指定した曲を繰り返し再生します。
オーディオ CD	レジューム再生	最後に再生していた曲を再生します。
	フォルダー	指定したフォルダーを繰り返し再生します。
データ CD/USB 機器	レジューム再生	最後に再生していた曲を再生します。
	プリセット局	指定したプリセット登録局がかかります。
FM/AM ラジオ	レジューム再生	最後に聴いていた放送局がかかります。

* プレイリストの作成方法は、iPod または iTunes の説明をご覧ください。

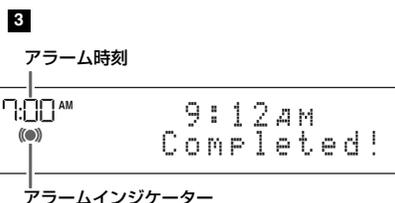
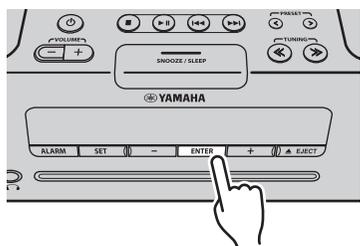
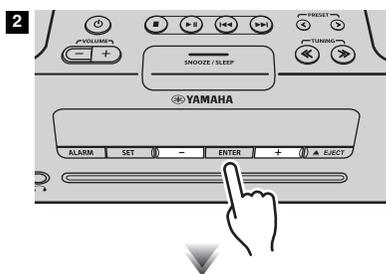
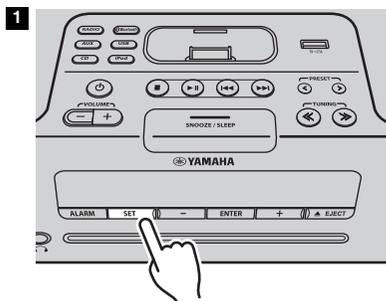
◆ スヌーズ機能

5 分後に繰り返しアラームを再生するスヌーズ機能を使用できます（※ P. 16）。

アラームを設定する

◆ アラームの時刻、タイプを設定する

! 省電力時は、アラーム設定はできません。アラーム機能を使うときは、背面の クロック CLOCK スイッチを ON にしてください。

**1** セット SET を押す。

アラームインジケータ (**(●)**) が点滅します。

2 アラームの設定をする。

以下の ① ~ ⑤ の項目を設定します。

- / + を押して数値を選択し、エンター ENTER を押して確定します。

設定項目	設定内容または設定範囲
① <small>アラーム</small> ALARM SELECT <small>セレクト</small>	※ 「DTA Controller」でアラームを設定した後に選択できません (※ P. 16)。「DTA Controller」を使用しない場合は ② へ進みます。 <small>ワン</small> ONE DAY : 指定した時刻に一度だけ鳴るアラーム <small>ウィークリー</small> WEEKLY : 曜日ごとに時刻設定できるアラーム (「DTA Controller」でのみ設定できます) WEEKLY を選択すると、アラーム設定が完了します。
② <small>タイム</small> ALARM TIME	時→分の順で設定します。
③ <small>タイプ</small> ALARM TYPE	<small>ソース</small> SOURCE+BEEP、SOURCE、BEEP から選択します。詳細については、「3 つのアラームタイプ」(※ P. 14) を参照してください。 BEEP を選択した場合は ⑤ へ進みます。
④ <small>ソース</small> ALARM SOURCE (ALARM TYPE に SOURCE+BEEP、SOURCE を選択した場合)	iPod : iPod の音楽を再生します (「さまざまな音楽ソース」(※ P. 14) を参照してください)。 <small>Bluetooth</small> Bluetooth 接続された iPod は再生できません。iPod を iPod Dock <small>ドック</small> に接続してください。 CD : CD の音楽を再生します。 トラック番号 (データ CD : フォルダ番号) (<small>レジューム</small> RESUME、1 ~ 99) を指定してください。 USB : USB 機器の音楽を再生します。 フォルダ番号 (RESUME、1 ~ 999) を指定してください。 FM/AM : ラジオの放送を再生します。 プリセット番号 (RESUME、1 ~ 30) を指定してください。
⑤ <small>ボリューム</small> ALARM VOLUME	アラームの音量 (5 ~ 60) を設定します。

3 設定を終了する。

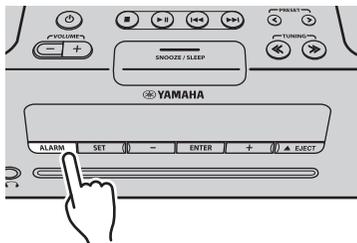
⑤ で VOLUME を設定すると、「Completed!!」と表示されて設定内容が確定し、アラーム設定が終了します。

アラームがオンになり、アラームインジケータ (**(●)**) が点灯します。



- 設定の途中で SET を押すと、すでに設定されている内容を確定してアラーム設定を終了できます。
- アラーム設定を途中でキャンセルしたいときはシステムオフにしてください。

◆ アラームをオン / オフにする



アラーム
ALARM を押してアラームをオン / オフにする。
 アラームをオンにすると、アラームインジケーター (●) が点灯し、アラーム時刻が表示されます。もう一度 **ALARM** を押すと、アラームインジケーター (●) が消灯し、アラームがオフになります。

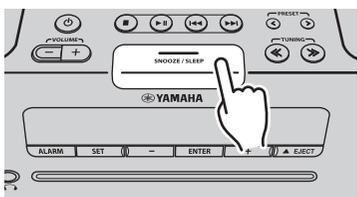


省電力時は、**アラームは動作しません** (P. 6)。

アラーム再生中の操作

設定した時刻になると、選択したアラーム音が再生されます。再生中は以下の操作が可能です。

◆ アラームを一時的に止めたい場合 (スヌーズ機能)



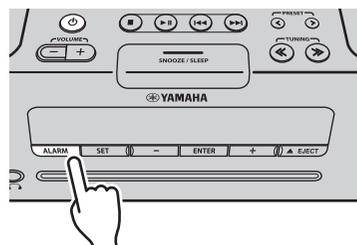
スヌーズ スリープ
SNOOZE/SLEEP を押す。

スヌーズ機能により、5 分後に再びアラーム音を再生します。



アラームタイプが ソース SOURCE+BEEP のときは、**SNOOZE/SLEEP** を一回押すと ビープ ビープ音を停止し、二回押すと音楽ソースを停止します。音楽ソースが停止してから 5 分後に再び音楽ソースを徐々に音量を上げながら再生し、ビープ音を鳴らします。

◆ アラームを停止したい場合



アラーム
ALARM または **⏻** を押す。



- **SNOOZE/SLEEP** を長押ししても停止できません。
- アラームを停止しない場合、60 分後に自動的に停止し、システムオフになります。
- アラームを停止させても、アラーム時刻など設定した内容は保持されます。再度 **ALARM** を押してオンにすれば、前回の設定内容でアラームが再生されます。

iPod touch/iPhone/iPad 用アプリケーション「DTA Controller」を使う

iPod touch/iPhone/iPad 用の無料アプリケーション「DTA Controller」をお使いいただくと、アプリケーションから本機を操作したり、多彩なアラームを設定したりすることができます。たとえば、各曜日ごとにアラーム時刻を設定したり (Weekly Alarm)、IntelliAlarm をお好みに合わせて調整したりすることができます。



設定した Weekly Alarm の情報は前面ディスプレイに表示されます。



「DTA Controller」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。

スリープタイマー機能を使う

設定した時間が経過すると、自動的に本機をシステムオフにします。



スヌーズ スリープ
SNOOZE/SLEEP を繰り返し押し、システムオフになるまでの時間を選ぶ。

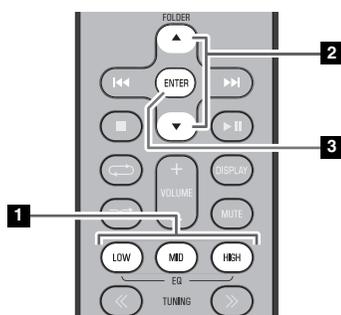
スリープタイマーは 30、60、90、120 分から選択できます。

時間を選択するとスリープタイマーが設定され、スリープインジケータ (🔦) が前面ディスプレイに表示されます。



スリープタイマーの動作中に **SNOOZE/SLEEP** を押すと、スリープタイマーが解除されます。

音質を調節する (リモコンのみ)



1 再生中にリモコンの EQ: ロー ミッド ハイ **LOW、MID、HIGH** のいずれかを押す。

調節する音域 (低音: LOW、中音: MID、高音: HIGH) を選択できます。

2 ▲ / ▼ を押して音質を調節する。

3 リモコンの エンター **ENTER** を押して終了する。

手順 **1** で押した EQ ボタンを押して、設定を終了することもできます。

他の音域を調節したい場合は、再度手順 **1** に戻り、調節したい音域の EQ ボタンを押してください。

前面ディスプレイの明るさを調節する (リモコンのみ)



ディマー
リモコンの **DIMMER** を繰り返し押す。

以下の順番で前面ディスプレイの明るさが切り替わります。

AUTO (オート) → **1** (明るい) → **2** (中間) → **3** (暗い) → **AUTO** へ戻る



AUTO に設定した場合は、前面ディスプレイの照度センサー (P. 4) で周囲の明るさを感知します。センサーが隠れないようご注意ください。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に動作しない場合は、本機をシステムオフにし、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または修理ご相談センターまでお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策
スピーカーから音が出ない。	音量が最小またはミュートに設定されている。	音量を調節してください。
	音楽ソースが正しく選択されていない。	正しい音楽ソースを選択してください。
	ヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを取り外してください。
	接続している外部機器の音量が小さい。	外部機器の音量を上げてください。
音が突然出なくなる。	スリープタイマー (※ P. 17) を設定している。	本機をシステムオンにして再生しなおしてください。
音割れ、音の歪み、異音がする。	入力した音楽ソースの音量が大きい。または本機の音量 (とくに低音) が大きい。	VOLUME で音量を下げるか、EQ (※ P. 17) で低音を調節してください。外部機器を再生している場合は、外部機器の音量を下げてください。
本機が正常に動作しない。	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機をシステムオフにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに差し、システムオンにしてください。
システムオンにしてもすぐにオフになる。		
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。
時刻の設定内容が消えた。	本機への電力供給が 1 週間以上遮断されていた。	電力供給が 1 週間以上遮断されると、時刻設定がリセットされてしまうことがあります。この場合は時刻を再度設定してください (※ P. 6)。
アラームのソースに iPod を設定しても、アラーム時刻に iPod が再生されない。	iPod が本機の iPod Dock に接続されていない。	iPod を本機の iPod Dock に接続してください (※ P. 3)。
時計が点滅していて、操作ができない。	CLOCK スイッチが SET になっており、時計設定中の状態になっている。	CLOCK スイッチを ON または OFF にしてください。
アラームが鳴らない。	CLOCK スイッチが OFF または SET になっている。	CLOCK スイッチを ON にしてください。
前面ディスプレイに「ALARM not work」と表示され、アラーム設定ができない。		
本体の電源が勝手に切れる。	自動システムオフ機能が働いた。	USB 機器や CD の再生を停止したあと何も操作されない状態が 60 分間続いた場合、または、システムオン中に 12 時間以上無操作が続いた場合、本機は自動的にシステムオフになります。
前面ディスプレイが暗くなる。	前面ディスプレイの明るさの設定が AUTO になっている。	明るさの設定を AUTO 以外にしてください (※ P. 17)。または、照度センサー (※ P. 4) が隠れないようにしてください。

iPod

症状	原因	対策
音が出ない。	iPod が iPod Dock にしっかり接続されていない。	一旦 iPod を本機から取り外し、再度 iPod Dock に正しく接続してください (※ P. 3)。
	iPod のヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを取り外してください。
	iPod のソフトウェアが最新バージョンになっていない。	アップル社のウェブサイトから最新の iTunes ソフトウェアをダウンロードし、iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップグレードしてください。
iPod が充電されない。	iPod が iPod Dock に正しく接続されていない。	一旦 iPod を本機から取り外し、再度 iPod Dock に正しく接続してください (※ P. 3)。
	ソースが USB になっている。	ソースを USB 以外にしてください。
iPod を接続したのに「iPod Unknown」と前面ディスプレイに表示される。	本機が対応していない iPod が接続されている。	本機が対応している iPod をご使用ください (※ P. 22)。

CD の再生

症状	原因	対策
ディスクが挿入できない。	すでに他のディスクが挿入されている。	▲ EJECT でディスクを取り出してください。
	本機で使用できないディスクを挿入しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (P. 21)。
特定の機能が動作しない。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (P. 21)。
	ディスクが汚れている。	ディスクの汚れを拭きとってください。
本体もしくはリモコンの▶IIボタンを押しても再生が始まらない(すぐに停止する)。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (P. 21)。
	本機を気温の低い場所から高い場所に移動したため、レンズ部に露が付いた。	本機を、1～2時間ほど放置し、部屋の温度になじませてから、再度操作してください。
	ディスクが汚れている、または異物が付着している。	ディスクの汚れを拭きとってください。または付着した異物を取り除いてください。
ディスクを挿入後、「No Disc」または「CD Unknown」と前面ディスプレイに表示される。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (P. 21)。
	再生可能なファイルがディスクに入っていない。	再生可能なファイルが入っているディスクを挿入してください (P. 21)。
	ディスクが裏返しに挿入されている。	ラベル面を上にして挿入してください。
前面ディスプレイに「no operation」と表示され、ディスクの挿入、取り出しができない。	時計 / アラーム / 音質が設定中の状態になっている。または、アラームが再生されている。	時計 / アラーム / 音質の設定を終了してください。または、アラームを停止してください。

USB 機器の再生

症状	原因	対策
USB 機器内の MP3/WMA ファイルが再生できない。	USB 機器が認識されていない。	本機をシステムオフにして USB 機器を取り外してください。その後、システムオンにして USB 機器を接続しなおしてください。 上記の対策をしても症状が改善されない場合、お使いの USB 機器は本機に対応していません (P. 21)。
	再生可能なファイルが USB 機器に入っていない。	再生可能なファイルが入っている USB 機器を接続してください (P. 21)。
USB 機器を接続後、「USB OverCurrent」と前面ディスプレイに表示されたあと、前面ディスプレイの表示が消える。	本機に対応していない USB 機器を接続した。または、USB 機器が本機に正しく接続されていない。	USB 機器を接続しなおし、本機をシステムオンにしてください。再度同じ症状が現れた場合は、接続された USB 機器は使用できません (P. 21)。

Bluetooth

症状	原因	対策
本機と相手機器がペアリングできない。	相手機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「0000」の機器をご使用ください。
	本機と相手機器の距離が離れすぎている。	相手機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
Bluetooth 接続ができない。	本機が相手機器の Bluetooth 接続リストに登録されていない。	再度ペアリングを行なってください（※ P. 10）。
音が出ない、または音が途切れる。	本機と相手機器との Bluetooth 接続が切断された。	接続し直してください（※ P. 11）。
	本機と相手機器の距離が離れすぎている。	相手機器を本機に近づけてください。
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
	相手機器の Bluetooth 機能がオフになっている。	相手機器の Bluetooth 機能をオンにしてください。
	相手機器が Bluetooth 信号を本機に送っていない。	相手機器の Bluetooth 機能が正しく設定されているか確認してください。
	相手機器の出力切替が本機になっていない。	相手機器の出力切替を本機にしてください。
	相手機器の音量が最小になっている。	相手機器の音量を上げてください。

FM/AM 放送局の受信

症状	原因	対策
雑音が多い。	アンテナが正しく接続されていない。	アンテナが正しく接続されていることを確認してください（※ P. 4）。または、市販の屋外アンテナを使用してください。
	アンテナが本機または電子機器に近い。	アンテナを本機または電子機器からできるだけ離して設置してください。
ステレオ放送になると雑音が多くなる。	選択している放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の放送局の受信感度が良くない。	手動チューニングで雑音を軽減するか（※ P. 12）、市販の屋外アンテナを使用してください。
屋外アンテナを使用しても受信感度が悪い（音が歪むなど）。	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

リモコンの操作

症状	原因	対策
リモコンで本機を操作できない。	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」（※ P. 2）を参照してください。
	本機のリモコン受光部（※ P. 4）に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください（※ P. 2）。
	リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がある（※ P. 2）。	障害物を取り除いてください。

ディスクおよび USB 機器について

ディスクに関するご注意

本機は下記のロゴのついた音楽 CD、CD-R/RW* を再生できます。



* ISO 9660 フォーマットの CD-R/RW

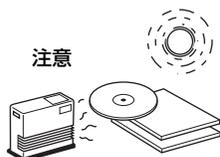
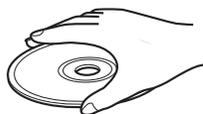


ディスクのロゴマークは、ディスクやディスクのジャケットに印刷されています。

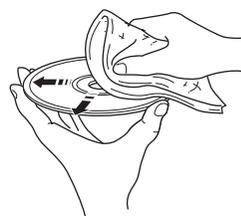
- ❗ 本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、上記以外のディスクは使用しないでください。
- ファイナライズされていない CD-R や CD-RW ディスクは再生できません。ファイナライズとは、各ディスクの再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 信頼できるメーカーのディスクを使用してください。記録状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。
- 表面に傷のあるディスクは使用しないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- 8 cm ディスクは使用しないでください。

ディスクの取扱いについて

- ディスクを持つときは、ディスクの縁や中央の穴を持つようにし、表面に触れないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- ディスク以外のものを CD 挿入口に入れないでください。
- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。レコードクリーナーやシンナーなどは使わないでください。
- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。
- ディスクは 1 枚だけ挿入してください。2 枚以上重ねて挿入すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。



USB 機器に関するご注意

本機で再生できる機器は、USB マスストレージクラスに対応し、データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されているフラッシュメモリ、ポータブルオーディオプレーヤーです。



- お使いの USB 機器によっては正常に作動しないことがあります。
- USB マスストレージクラス以外の機器 (USB チャージャーや USB ハブ)、PC、カードリーダー、外付け HDD など本機に接続できません。
- USB 機器を本機と接続して使用しているときに、USB 機器のデータを消失あるいは損傷した場合、当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。
- すべての USB 機器に対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。
- 暗号化機能付きの USB 機器は使用できません。

MP3 および WMA ファイルについて



- 本機は以下のファイルに対応しています。

ファイル	ビットレート (kbps)	サンプリング周波数 (kHz)
MP3	8-320**	16-48
WMA	16-320**	22.05-48

** 固定および可変ビットレートに対応しています。

- 本機が再生できるファイルおよびフォルダーは以下のとおりです。

	データ CD	USB
最大ファイル数	512	9999
最大フォルダー数	255	999
1 フォルダー内の最大ファイル数	511	255

- 著作権保護がされているファイルは再生できません。

主な仕様

◆プレーヤー部

iPod (デジタル接続)

[2012年7月現在]

- 対応 iPod..... iPod touch(第1、第2、第3、第4世代)
iPod nano(第2、第3、第4、第5、第6世代)
 - 対応 iPhone..... iPhone 4S、iPhone 4、
iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone
 - 対応 iPad..... iPad(第3世代)、iPad 2、iPad
- iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、iPodが本機に認識されない場合や一部の機能が使えない場合があります。

CD

- メディア..... CD、CD-R/RW
- オーディオフォーマット..... オーディオ CD、MP3、WMA

レーザー

- タイプ..... 半導体レーザー GaAs/GaAlAs
- 波長..... 790 nm
- 出力..... 7 mW

USB

- オーディオフォーマット..... MP3、WMA

AUX

- 入力端子..... 3.5 mm ステレオミニジャック

◆Bluetooth部

- Bluetoothバージョン..... Ver. 2.1+EDR
- 対応プロファイル..... A2DP、AVRCP

- 対応コーデック..... SBC、AAC
- 無線出力..... Bluetooth Class 2
- 最大通信距離..... 10 m (障害物が無いこと)
- 対応コンテンツ保護..... SCMS-T方式

◆アンプ部

- 最大出力..... 15 W + 15 W
(6 Ω 1 kHz、10% THD)
- ヘッドホン端子..... 3.5 mm ステレオミニジャック
(適合インピーダンス 16 ~ 32 Ω)

◆チューナー部

受信周波数範囲

- FM..... 76.0 ~ 90.0 MHz
- AM..... 531 ~ 1611 kHz

◆総合

- 電源電圧 / 周波数..... AC 100 V、50/60 Hz
- 消費電力..... 30 W
- システムオフ時消費電力..... 3.5 W 以下 / 0.5 W 以下 (省電力時)
- 外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)..... 370 × 110 × 230 mm
- 質量..... 3.9 kg

仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

音楽を楽しむエチケット

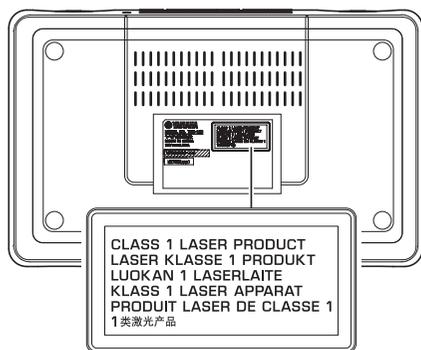
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

iPod, iPhone, iPad

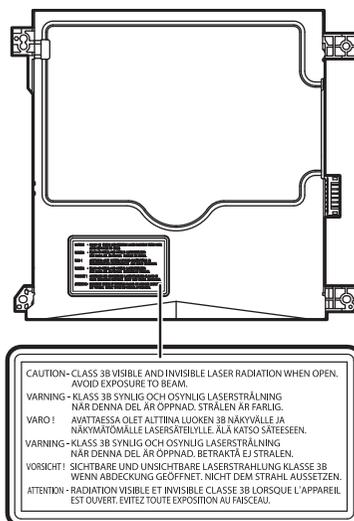
「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone または iPad 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって証明された電子アクセサリーであることを示します。アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod、iPhone または iPad と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iPod、iPhone、iPod、iPod nano、iPod touch、iTunes は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

製品ラベルは本体の底面に掲示してあります。



この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という禁止を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
● 異常なおいや音がる。
● 異常に高温になる。
● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。
● 重いものを上に載せない。
● ステープルで止めない。
● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。
● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：
● 布やテーブルクロスをかけない。
● 仰向けや横倒しには設置しない。
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右10cm、上15cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用する。

本機が発生する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

禁止

使用上のご注意



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

接触禁止



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。



CD挿入口や、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

禁止

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

必ず実行

⚠ 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の  ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

ぬれ手禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁止



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

必ず実行



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

禁止

電池



電池は極性表示（プラス+とマイナス-）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行



電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。

必ず実行



指定以外の電池は使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止



電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止



長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。

必ず実行



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

必ず実行

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止



ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

必ず実行

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

使用上のご注意



再生の前には、音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

必ず実行



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

注意



ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。

色むらが生じる可能性があります。

注意



外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

必ず実行



CD挿入口には手を入れない。

本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。

禁止



ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。

ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。

禁止



レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光が目にあたると、視覚障害の原因になります。

禁止



大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

禁止

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

必ず実行



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。
また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。柔らかい布で乾拭きするか、汚れがひどいときは、水を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

禁止



年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

注意

Bluetooth について

- Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。
- Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

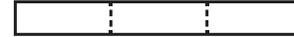
Bluetooth 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth 対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

本機の無線方式について



「2.4」..... 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」..... 変調方式は周波数ホッピング (FH-SS 方式)
「1」..... 想定干渉距離が 10 m 以内



..... 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口



0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

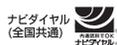
■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

名古屋サービスステーション

〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

九州サービスステーション

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

- **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。
- **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご希望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

